



ぶかぶか漂う  
第6回

## おさがりのランドセル

我が家ではこの春、長男が中学へ、次男が小学校へ入学します。秋ごろだったか、幼稚園からの手紙に混じってランドセルの広告を持ち帰った次男に、ほんの軽い気持ちで言つてみました。

「お兄ちゃんのランドセル使つたらいいよー」と。すると次男、「おお！ アレ、おれにくれるのー？」と素直に喜ぶではないですか。

二年間日本にいなかつたこともあり、長男のランドセルは実際かなりキレイ。長男が自分のランドセルを気に入っている様子を次男は見ていたし、ランドセルと一緒に登校する兄と姉の姿に憧れもあつたようです。

そういうのか、買わないでいいのか。内心にんまりしたのは事実ですが、兄のものを使いたいと思う次男の気持ちは嬉しさもあります。兄のランドセルを背負つたうちのピカピカの一年生、誇らしいです。

そもそも我が家では、下着と靴下

まま提出されてしまいました。

娘や息子たちが着た洋服は、小さくなつたものから順次、近所に住む兄家族の家にまわします。うちの子たちにどうとはいっても、小さな男の子と女の子がいるのです。「次はこのランドセル、いどこが使えるね！」と次男。ランドセルだって当然まわすつもりのようです。

**母たちもおめでとうございます！！**

それにしても、卒業と入学の準備がダブルで訪れるのは結構キツイですね。「三学年差は大変」という先輩たちの言葉が身に沁みます。我が家は三学年ずつ離れて三人ですから六年後なんて、高校卒業、中学卒業、小学校卒業とトリプルです。進路の問題もあるだろうし、想像するのもこわい…。

しかし、まずは今年。末っ子次男の卒園によって、私は九年間の幼稚園母から卒業です。それはちょっと感

以外は買わなくて済むくらい、いろいろな方からおさがりの子供服をいただきます。実際以上の「子だくさんイメージ」を醸し出しちゃっているのでしょうか…。でも心からありますといことだと思っています。子どもたちは物心つく前からそんな状態で育つますから、おさがりにまたたいたいことだと思っています。子どもたく違和感がありません。

先日は娘の社会の宿題で、自分の家ではどこで何を買っているのかを表にまとめる課題がありました。

「食料品…スーパー、マーケット

日用品…ドラッグストア

衣類…公園」

え、公園？

以前、通りがかりの公園でフリーマーケットが開かれていて、一緒にいた娘にフリーフリスカートなどを買つたことがあります。そんな記憶しかないのかと唖然。文字で書かれるとなんだか恥ずかしいではないですか。しかし代案もなく、宿題はその

概深くて、今年は着物で式に臨むことに。中学生母という初めての領域にも踏み込みますし、私にとって節目の春です。

式の主役はもちろん子どもたち。親が着るものなんて重要じゃないですよ。でも勝手に気持ちの問題です。私たち親も、子どもたちと全く同じ月日を一日一日、幼稚園母として、小学生母として経験し、学び、乗り越えてきました。母たちに祝いしてまわりたい気分です。

ちなみに、我が子たちが式で着るスーツはもちろんおさがり。私の着物も母からのおさがりです。



文・写真  
小宮華寿子  
出版社編集部員  
を経て、フリー  
ラジオ編集者  
に。2男1女の母。著書に『ブラジル  
の手しごと』(メイツ出版)がある。



イラスト  
デザイン  
寺沼麻美  
切り絵作家、時々  
デザイナー。「ゆ  
らゆらゆれる北欧風手作りモビール」  
(ネコ・パブリッシング)を監修。